



ウイトラレポート 2009 年 9 月号

「拡張現実と G 空間サービス ユビキタス社会のキラアプリか？」

はじめに

今月は将来のユビキタス社会のキラアプリとなるかもしれない拡張現実(英語では Augmented Reality)の動向と、そのサービスを実現するうえで一つの鍵となると思われる汎用位置情報サービス「G 空間サービス」について現状を述べ実用化に向けた課題を考察する。拡張現実の典型的例はビデオカメラで撮影中の物体と重ねてその物体の情報を画面上に表示する技術である。ガートナーグループなどは拡張現実が大きな事業になるのは 10 年以上先、としているようであるが私は意外と近いのではないかと感じている。G 空間サービスは経済産業省での調査研究会から来た用語であるが政府が意思を持って社会インフラを構築する可能性があるので拡張現実を実現するうえで重要な助けとなると思われるので合わせて検討する。